

高温の日が続いています。湛水状態を維持し、稲体の消耗を防ぎましょう。

1 水稻の生育

6月の低温などから葉数の展開は遅く止葉の葉数は平年に比べて少なくなる見込みですが、7月下旬からの高温により置賜地域の出穂期は平年並みになる見込みです。

本年の出穂期の予測

品種	本年出穂期予測	平年出穂期	平年差
ひとめぼれ	8月6～7日	8月6日	+0～1日
はえぬき	8月8～9日	8月8日	+0～1日
つや姫	8月13日	8月13日	±0日
コシヒカリ	8月14日	8月14日	±0日

2 気象情報

今後1週間は、晴の日が続く見込みで、最高気温が30℃を上回る日が多く、降水確率は低い予報になっています。

3 出穂・開花期の水稻の管理

水稻の生育の中で、出穂・開花期が最も水を必要とする時期です。ほ場に水がない状態で、高温やフェーンの風により、出穂したばかりの穂が傷み、籾や枝梗の枯れ上がり等の白化現象を引き起こすことがあります。

- (1) 早急にほ場の巡回を行い、出穂の状況や水田の水の状態を確認し、水が不足している場合には速やかに入水し、出穂期のおよそ4日間は2～5cmの湛水管理を行いましょう。
- (2) 高温が続く場合は、水温が上昇したら水を交換し、さらに湛水状態を維持し、稲体の消耗を防ぎます。また、それぞれの水利関係組合によっては通水日が決まっている場合がありますので、計画的に入水し対応しましょう。

4 病虫害防除対策

(1) 斑点米カメムシ類

7月19日に病虫害防除所より斑点米カメムシ類に関する注意報が発表されており、アカヒゲホソミドリカスミカメやアカスジカスミカメが増加しています。穂揃期とその7～10日後の2回の防除を徹底しましょう。

(2) いもち病

中山間、山間地域において箱施用剤によるいもち病防除を行っていないところでは、葉いもちの発生が見られます。穂いもちに進展しないように、穂孕後期と穂揃期の2回の防除を徹底しましょう。